

生涯学習情報紙

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第365号



大和村公民館講座開講式

4月20日（土）に防災センターで公民館講座合同開講式が開催されました。令和6年度は、新設2つの講座を含む20講座に186人が受講する予定です。

郁島館長は「技能や知識等を高めて生きがいづくりや地域づくりに生かしていただきたい」とあいさつし、各講座の講師に委嘱状を手渡しました。

新設された環境文化講座「大和村11集落（いしマ）学」に関する説明を行いました。講師を務めるのは今年度4月に着任した高梨 修 学芸員（元奄美博物館館長）です。講座では村内各集落の魅力や暮らし、文化についてを学びます。

なお、受講の申し込みは随時受け付けておりますので、どしどし中央公民館までお越しください。



第7回大和村ジョギング大会

第7回大和村ジョギング大会を5月26日（日）に開催予定です。みなさんの参加をお待ちしております。詳細につきましては、後日、チラシを配布いたします。



昭二兄の四方山話 （よもやまばなし）

クルガマ（黒崖）

私が小学生時代（昭和30～40年）のお別れ遠足の話です。3月の大和小・中学校合同のお別れ遠足は宮古崎と決まっていた、とても楽しい思い出が残っています。390名余りの全校生徒は学校を出発して旧県道を通って国直を目指します。国直の浜に着くと山道を登りサキノハマというきれいな浜に着き休憩し、1年生から4年生まではそのままサキノハマにとどまり、5年生から中学生は宮古崎に向かいます。現在のような歩道は整備されていないのでヒジャ（砂浜のない岩ばかりの海岸）を歩いて行き、クルガマの手前にある山道に着きます。ここからが現在では想像つかない遠足です。入り口へ着くと列をなして登っていきます。当時は浦内の人たちが高倉や家の屋根用のササを取りにいくための山道がありました。また、漁師の人たちの目印でもあったクルガマです。道とはいえ名前の通りガマで急傾斜であり、女子生徒は大変だったと思います。苦労してたどり着いた宮古崎は何とも言えない爽快感になり、別世界のような想いがしたものです。大人になり宮古崎遊歩道から眼下のクルガマを見ると子供の頃がよみがえってきます。その中で5年生の時、ササの上で遊ぶことに夢中になり同級生の松男君の弁当箱が紛失しクラス全員で弁当箱を探したことが一番の思い出です。松男君は今頃どこにいるのか一番に会いたい。

